

2. 21系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
21	桜木町駅前	日本大通り駅県庁前、元町、山元町1丁目、旭台、根岸駅前	市電保存館前	滝頭		B	深夜バス運行
21系統解説	滝頭営業所の主要路線です。桜木町駅を出たバスは日本大通り駅県庁前まで国道133号線を走り、県庁前で右折。ついで横浜スタジアム前で左折し、元町、麦田のトンネルを抜けて右折。柏葉、山元町1丁目、根岸の森林公園の脇を通り旭台に行きます。2006年3月までは平日日中のみここから根岸台に行くバスがありました。市電保存館行きは旭台で左折して不動坂を下ります。更に根岸駅前を経由して市電保存館前まで行きます。路線内でのアップダウンの激しい路線です。						
22	保土ヶ谷駅西口	花見台、仏向町団地、和田町駅、星川駅	保土ヶ谷駅西口	保土ヶ谷		C	小型車運行
22系統解説	以前の22系統は21系統の補助路線として桜木町駅～市電保存館を走っていましたが、21系統に統合され、その後新しく保土ヶ谷地区の循環線として生まれ変わりました。保土ヶ谷駅西口を出て保土ヶ谷小学校前で左折、桜ヶ丘、花見台と25系統と同じルートを走ります。花見台から先は22系統オリジナル区間で、横浜新道の脇を走り仏向町(ぶっこうちょう)団地、和田町駅、星川駅を通り、保土ヶ谷駅西口に戻ります。花見台から先の道路が非常に狭く、小型車の運行になっています。なお、22系統オリジナルの区間路線決定の際に多少のトラブルがあり、路線が変更になった経緯があります。						
23	中山駅前	十日市場駅前、長津田駅前、こどもの国入口	奈良北団地折返場	若葉台		C	中山駅～長津田駅前間は頻度B 土休日の運行頻度はC
	中山駅前	十日市場駅前	長津田駅前	若葉台		B	
	十日市場駅前	青葉台営業所、田奈駅、こどもの国入口	奈良北団地折返場	若葉台		B	十日市場駅前～前川神社前間は頻度C
	中山駅前	十日市場駅前、郵便局前、若葉台車庫前	若葉台中央	若葉台	東急 神奈中	C	中山駅～十日市場駅間は頻度B 共通定期券取扱区間は十日市場駅～若葉台中央間
	青葉台駅	十日市場駅前、郵便局前、若葉台車庫前	若葉台中央	若葉台		A	神奈中バスは十日市場駅～若葉台中央間の運行
	青葉台駅	十日市場駅前、杉沢	三保中央	若葉台		C	
23系統解説	横浜市営バスでもっともバリエーションの多い系統の一つです。基本は中山駅から長津田駅経由奈良北団地線なのですが、長距離路線かつ渋滞の激しい区間を走ることなどから現在ではこのルートは一日7～8往復になってしまいました。その代わり、十日市場駅から稲荷前経由の奈良北団地行きの本数が増えました。もう一方の代表格路線である青葉台駅～若葉台中央線は本数も多く、また乗客も多い路線です。朝のラッシュ時など、若葉台中央から十日市場駅までは約2分おきにバスが出ています。三保中央線は青葉台駅と三保中央を結ぶ路線です。長らく緑営業所、そして緑営業所と若葉台営業所の共管体制でしたが、2007年3月のダイヤ改正で若葉台営業所単独諸関係等となりました。また同時に中山駅口の路線が大幅に減便されました。						
24	横浜駅西口	六角橋、菊名橋、大口駅東口	生麦	鶴見		B	一部中型車による運行
	横浜駅西口	青木橋、子安	生麦	鶴見		IC	1往復のみ 横浜駅西口発は平日のみ運行

2.21系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
24系統 解説	横浜駅西口から鶴見営業所のある生麦まで行くバスです。横浜駅から生麦へ向かうわけですが、東神奈川駅西口に着いたバスは生麦とは違う方向に走り、六角橋から六角橋北町まで走ります。六角橋北町で右折したバスは東急東横線の妙蓮寺駅前の菊名橋を通り、内路(うつろ)に出ます。ここで再度右折し、大口駅東口を經由して入江橋で国道15号線(第一京浜)まで走ります。入江橋で左折するとその先は新子安を通り、生麦まで走ります。起終点の間の直線距離はさほどないのですが、路線としては遠回りをしていることから全線を通して乗ると約40分かかります。その為朝の生麦発1本、平日夜の横浜駅西口発最終便の1本は青木橋～入江橋間を国道15号線(新町)経由で走ります。						
25	横浜駅西口	洪福寺、星川駅前、保土ヶ谷野球場前	保土ヶ谷駅西口	保土ヶ谷		B	深夜バス運行 (保土ヶ谷駅西口 星川駅 保土ヶ谷車庫前間)
	保土ヶ谷駅西口	保土ヶ谷野球場前、星川駅前、大門通	保土ヶ谷駅西口	保土ヶ谷		RB	循環線は平日朝夕、土休日の朝のみ運行(頻度は運行時のもの)
25系統 解説	保土ヶ谷区の桜ヶ丘、花見台、保土ヶ谷球場といった高台の地域と横浜駅・保土ヶ谷駅を結ぶ重要な路線で、保土ヶ谷営業所を代表する路線です。横浜駅西口からのバスは鶴屋町3丁目から浅間下を經由し洪福寺交差点は直進します。その先大門通で右折し、しばらく相鉄線沿いに走り星川駅まで走ります。その先で左折し、高台へと上っていきます。明神台から高校野球の予選会場で有名な保土ヶ谷球場前を通り、花見台へ。そこで左折し、桜ヶ丘まで走ります。その先は今度は下り坂で保土ヶ谷小学校前。右折してしばらく行くと保土ヶ谷駅西口終点です。かつては横浜駅西口～保土ヶ谷駅西口線のみでしたが、現在では保土ヶ谷駅西口発の循環便も朝夕を中心に運行されています。						
26	本牧車庫前	本牧ふ頭入口、山下公園前、大榎橋	横浜駅東口	浅間町 本牧		C	桜木町駅前～本牧ふ頭入口間は頻度A リフト車運行
	横浜港 シンボルタワー	本牧ふ頭入口、山下公園前、大榎橋	横浜駅東口	浅間町 本牧		C	
	海づり棧橋	本牧ふ頭入口、山下公園前、大榎橋	横浜駅東口	浅間町 本牧		B	
26系統 解説	山下公園の前を走る路線です。横浜駅を出たバスは桜木町駅を經由し、横浜第2合同庁舎前を左折し、さらに次の交差点で右折し、海岸通りに入ります。大榎橋、山下公園、マリントワーといった観光地の前を通り、その後は産業道路をみなと赤十字病院入口、小港橋と走ります。小港橋で左折し、本牧ふ頭方面に入っていきます。本牧ふ頭入口で路線は2つに分かれ、1つは右折した後再度産業道路に入り、本牧車庫前まで行きます。直進するバスは本牧ポートハイツ前を通り、海づり棧橋まで走ります。その先は本数が少なくなるのですが、横浜港シンボルタワーの前まで行く便があります。以前は山下公園の周辺は休日などは車の往来が激しいことから、土曜・休日は横浜駅・桜木町駅からの便は海岸通りを通らず、県庁前、中華街入口経由で運転されていました。休日扱いとなる年末年始は長いときで1週間程度、山下公園の前を小港橋方向に行く便が走らない日が続きましたが、2004年2月1日のみなとみらい線開業に伴い、土曜、休日でも山下公園経由で運転されるようになりました。本牧車庫前発着便もあり、本牧営業所も担当していますが、最近では浅間町営業所の担当分が多いようです。						
27	鶴見駅前	汐鶴橋、入舟橋、安善駅前	安善町	鶴見 港北		B	土曜・休日の運行頻度はC
27系統 解説	1997年の路線図カレンダーでは一の瀬～鶴見駅～安善(あんぜん)町となっていたのですが、今では鶴見駅～安善町となりました(ちなみに、一の瀬まで行っていた頃、鶴見駅～一の瀬間は1日1、2本という状態でした)。鶴見駅を出たバスは、汐鶴橋を通り、本町通1丁目へ行きます。ここで上りと下りで走るルートが違う区間に入り、入舟橋まで行きます。入舟橋で左折し、産業道路を寛政(かんせい)まで1区間分走ります。そこで右折し、JR鶴見線の安善駅に出ます。踏切を渡り、3つ目のバス停が安善町です。安善町の降車用バス停は「安善町」バス停と「安善町(終点)」の2つにバス停が別れています。						

2.21系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
28	平和台折返場	権太坂、保土ヶ谷駅東口、水道道	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷		IC	休日・年末年始運休
28系統解説	以前は山下ふ頭～芹ヶ谷間を結ぶ長距離路線(所定所要時間:67分)だったのですが、長距離路線廃止の波に巻き込まれ、この区間のみ残りました。平和台～保土ヶ谷橋周辺の区役所へ(峰小学校前)の足と、79系統の入庫線という印象の路線です。平和台折返場を出ると浜松町まで東海道筋を走り、尾張屋橋を渡って保土ヶ谷車庫へ向かいます。2005年7月の民間への路線移譲を前提としたダイヤ改正の影響で平和台折返場発のみの運行となり、平日3本、土曜日3本のみの運行になりました。						
29	横浜駅前	東神奈川駅西口、岸谷、三ツ池道	鶴見駅前	鶴見		C	リフト車運行 横浜駅前～三ツ池道(鶴見駅方向は宮の下)間は7系統と合わせて頻度B
29系統解説	川崎駅行きの7系統同様、横浜そごう(現:そごう横浜店)オープンと同時に横浜駅西口発から東口発になった路線です(古くは東口発着でしたが)。横浜駅を出て青木橋を渡り、後は第2京浜を三ツ池道の交差点まで走ります。そこで右折して鶴見駅前に向かいます。横浜駅から三ツ池道・宮の下までは7系統とほぼ交互に運行されます。所要時間は横浜駅発の場合、鶴見駅でも川崎駅でも約40分です。						
30							
30系統解説	かつては県庁前～上大岡駅～上永谷駅～平戸～芹ヶ谷という長距離の路線バスだったのですが、最終的には上大岡駅～上永谷駅～芹ヶ谷を中心とした運行となりました。全区間を神奈中バスが並行して走るため、路線移譲対象となり、2006年1月28日の運行をもって市営バスは撤退し路線は廃止となりました。廃止前は上大岡駅～上永谷駅～京急ニュータウンという路線もありましたが、こちらは路線移譲と同時にそのものが廃止となりました。						
31	横浜駅西口	白楽、大口仲町、大口駅前、入江1丁目	横浜駅西口	浅間町		C	一方循環 小型車運行
31系統解説	小型車を使った循環路線です。横浜駅西口から東白楽までは大通りを走るのですが、東白楽から狭い道路に入っていきます。急な坂、狭い曲がり角を抜けて横浜線の大口駅前にいきます。その後、入江1丁目から第2京浜道路に再度出て、東神奈川駅西口を経て横浜駅西口に戻ります。						
32	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷駅東口、久保山霊堂、市庁前	日本大通り駅県庁前	保土ヶ谷		RC	平日の朝・夕日本大通り駅県庁前発のみ運行。 中型車運行
	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷駅東口、久保山霊堂、市庁前	新県庁前	保土ヶ谷		RC	平日の朝・夕新県庁前発のみ運行。 中型車運行
	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷駅東口、久保山霊堂、羽衣町	関内駅北口	保土ヶ谷		C	中型車運行
32系統解説	以前は保土ヶ谷車庫前から一本松小学校前までの路線でした。両地点は近道で行けば約15分で行くところをその4倍の約1時間かけて走る路線でしたが短縮されてしまいました。保土ヶ谷車庫前を出たバスは洪福寺を経て尾張屋橋を渡り、保土ヶ谷駅東口へ行きます。保土ヶ谷橋交差点を左折、さらに次の交差点を左折し、久保山に入っていきます。久保山霊堂前を通り、久保山バス停に出ます。そこから阪東橋にまで進み鎌倉街道に入ります。その後尾上町で右折、平日(2007年2月末までは土曜日)朝夕は市庁前で左折し日本大通り駅県庁前へ行きます。その他の時間帯、曜日は右折して関内駅北口に行きます。2001年11月から県庁前(現在は日本大通り駅県庁前)発着便については変更があり、県庁前での乗り場が新県庁前に変更になりました。						

2.21系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
33	市が尾駅	泉田向、柚の木谷、中川駅入口、あざみ野駅	たまプラーザ駅	港北ニュータウン		C	
33系統解説	かつては中山駅前(最終的には北口)から貝の坂、川和町、市が尾駅を通り、市が尾駅からは国道246号線を通って江田駅、あざみ野駅を経由してたまプラーザ駅に至る路線でした。市営地下鉄のあざみ野開業、その後の港北ニュータウン地区のバス路線の整理に伴い、この系統は旧89系統(市が尾駅～市が尾駅循環線)、311系統(センター南駅～あざみ野駅)の一部を引き継ぐ形で市が尾駅～たまプラーザ駅間の路線となりました。この改変によって市が尾駅から荏田新道間の国道246号線を走る市営バスはなくなりました。路線変更当初は1時間あたり1本程度の運行だったのですが、後のダイヤ改正で大幅減便となり現在はたまプラーザ駅までは毎日2往復、あざみ野駅までは平日は4往復、土曜、休日は2往復という運行になりました。あざみ野駅は以前は東急バスのバスターミナルに乗り入れていましたが、市営地下鉄のあざみ野開業時に駅の反対側に市営バス専用のバスターミナルができ、現在はそこから発着しています。たまプラーザ駅は東急バスの天下なので、たまにやってくる市営バスは珍しい存在となっています。						
34	横浜駅西口	三ツ沢総合グランド入口、翠嵐高校前、沢渡	横浜駅西口	浅間町保土ヶ谷		B	一方循環
34系統解説	横浜駅西口から出る循環線の中では最も距離の短い路線です。横浜駅西口を出ると岡野町、浅間下を通り、三ツ沢グランド方面に向かいます。三ツ沢グランドの入口のところで右折します(実際は直接右折せずに他の系統が停車するバス停の周囲を一回りして向きを変えます)。その先は狭い道を一路下っていきます。翠嵐高校前、沢渡を通り、泉町に出ます。そこから横浜駅西口へは一直線です。かつては保土ヶ谷営業所の単独担当路線でしたが、現在では浅間町営業所との共担路線となっています。						
35	横浜駅西口	三ツ沢総合グランド入口、神大寺入口、松本、反町、青木橋	横浜駅西口	浅間町保土ヶ谷		C	一方循環 神大寺入口 横浜駅西口は頻度B
	神大寺入口	栗田谷、反町、青木橋	横浜駅西口	浅間町保土ヶ谷		B	神大寺入口発のみ運行 (逆方向は50系統として運行)
35系統解説	35系統と50系統は同じ循環線の外回り・内回りです。循環線ですが、大阪のJR大阪環状線のように、循環をする本数は少なく、半分以上が横浜駅西口から50系統で途中の神大寺入口まで行き、そこで折り返して35系統で帰ってきます。乗客の数・及び三ツ沢地区の渋滞を考慮したダイヤ編成のようです。35系統としてのルートは横浜駅西口を出ると、岡野町、浅間下、三ツ沢総合グランド入口を経て、片倉町入口で右折します。片倉町入口の2つ先が神大寺入口です。ここは三ツ沢墓地のすぐそばです。しばらく山の上を走り、松本に下りてきます。その後は東横線の反町駅を経て青木橋、鶴屋町2丁目から横浜駅西口に戻ります。三ツ沢墓地へはかつて墓地利用者のために墓地の前に停車する臨時循環路線があったのですが、市営地下鉄の新横浜延伸に際して廃止され、現在ではお彼岸の時期は35、50系統を増発するなどに対応しています。						
36	横浜駅西口	東神奈川駅西口、六角橋、片倉町駅前、(一部)西菅田団地、菅田町、鴨居駅前	緑車庫前	緑浅間町		A	西菅田団地経由は頻度C
36系統解説	以前はいろいろな行き先のあるとても楽しい路線だったのですが、一部区間を82系統として独立させ、36系統としては横浜駅西口から緑車庫前までとなりました。それまでは中山駅前まで行っていたのですが短縮となっています。横浜駅西口から東神奈川駅西口、六角橋までは大通りを走り、その先地下鉄片倉町駅前へ向かいます。片倉町駅前に立ち寄り、今度は菅田町へ向かいます。菅田町までの途中、西菅田団地に立ち寄る便もあります。菅田町からしばらく行くと横浜線の鴨居駅前に出ます。鴨居駅前から3つ行くと終点緑車庫前です。以前は中山駅前まで行っていたと書きましたが、中山駅前へは平日と土曜日の片道1本に限り西菅田団地発という「珍」運用もあったそうです。						
37	横浜駅西口	(イベント開催時のみ運行)	三ツ沢グランド	全営業所		-	イベント時のみの運行につき、頻度は不定

2.21系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
37	東神奈川駅西口	(イベント開催時のみ運行)	三ツ沢グランド	全営業所		-	イベント時のみの運行につき、頻度は不定
37系統解説	かつては年に1度、市民体育大会があるときのみの運行バスだったのですが、現在ではサッカーのリーグの試合が三ツ沢競技場で行われる際に会場までの直行バスとして運行されます。また、この系統は決まった担当営業所がなく、イベントの規模に応じて全営業所が担当台数を割り当てられての運転になります。従って、横浜市営バスの路線バスのほとんどの車両にこの系統の方向幕が入っています。また、全ての車両に方向幕はありませんが東神奈川駅まで行く臨時便も時には運行されるようです。						
38	鶴見駅西口	柳町、東寺尾5丁目、内路、菊名橋、六角橋北町、片倉町駅前、三ツ沢総合グランド入口	横浜駅西口	港北		C	鶴見駅西口～東寺尾5丁目間は頻度B
	鶴見駅西口	柳町、東寺尾5丁目、内路、松見町1丁目	大口駅前	港北		C	
	鶴見駅西口	柳町、東寺尾5丁目、白幡、荒立、東寺尾5丁目、柳町	鶴見駅西口	港北		MC EC	
	鶴見駅西口	柳町、東寺尾5丁目、内路、わたうちだに、菊名老人センター前、港北小学校前、内路、東寺尾5丁目、柳町	鶴見駅西口	港北		C	
38系統解説	鶴見駅西口から横浜駅西口まで約1時間かけて走行するのがメインの路線です。その他に子系統として鶴見駅西口から大口駅に行く系統、鶴見駅から荒立まで行く循環線などがあります。メインの横浜駅系統は鶴見駅西口を出ると柳町、東寺尾5丁目、内路を経て六角橋北町の交差点を直進して片倉町駅前に出ます。そこからは三ツ沢総合グランド入口を経て宣言した、岡野町経由で横浜駅西口へ向かいます。大口駅系統は途中内路で本筋から別れて大口駅前へ、荒立循環は第2京浜との交差付近でしゃもじ型の循環を行います。循環線は午前と午後で循環方向が異なる運行体になっています。さらに、港北小学校周辺を循環するバスもあります。						
39	横浜駅西口	東神奈川駅西口、六角橋、篠原池、小机駅前、東本郷町、鴨居駅前、緑車庫前	中山駅前	緑		C	緑車庫～中山駅間は頻度C 同区間(中山駅発)は土曜・休日は朝夕のみ運行 中型車運行 深夜バス(中距離深夜バス)運行
	横浜駅西口	東神奈川駅西口、六角橋、篠原池、小机駅前、東本郷町、鴨居駅前	緑車庫前	緑		B	
39系統解説	横浜駅西口から鴨居駅・中山駅方面に向かうバスのうち、横浜線に沿って走る路線です。東神奈川駅、六角橋、篠原池(地下鉄岸根公園駅)、又口橋、小机駅、東本郷町、鴨居駅を経て中山駅に行きます。中山駅まで行くバスは最近ではめっきり減り、多くは緑車庫折り返しとなっているのが残念なところです。また、平日の朝ラッシュ時に限り小机駅折り返しの便もあります。本来市営バスが入らない小机駅構内に入っていきます。						
40	長津田駅前	玄海田、公園前、地区公園	若葉台中央	若葉台	神奈中	C	平日の日中及び土曜、休日運行
	長津田駅入口	玄海田、公園前、地区公園	若葉台中央	若葉台	神奈中	RB	平日の朝夕(夜間)のみ運行 神奈中バスとあわせて頻度A

2.21 系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
40系統							<p>元々は港南台駅から本郷台駅(更にその前は大船駅)を結ぶ路線でしたがこちらは平成10年1月、廃止になりました。平成14年8月に長津田駅から若葉台中央を結ぶ路線として復活しました。同区間には123系統もありましたが、40系統は新たに出来た道路を走り、玄海田、霧ヶ谷、若葉台近隣公園を經由して若葉台中央に向かいます(123系統は後に廃止となりました)。途中霧ヶ谷～若葉台中央間は65系統と同様のルートを通ります。新たな区間にはこれまで神奈中バスが路線を走らせていましたが、市営バスとの乗り入れ路線となりました。神奈中バスは対距離運賃制度を取っていたため、その路線を引き継いだ40系統も特殊区間料金制を採用しています。</p> <p>平日の朝夕は長津田駅構内が狭いことなどから駅前まで行かずに、一つ手前の長津田駅入口が起終点となります。長津田駅入口は神奈中バスの御幸通りバス停の所に降車用バス停があり、神奈中バスのルートをしばらく行ったところで折返しを行うようです。</p>